

〈連載(274)〉

ダイヤモンド・プリンセスの
日本起点クルーズが開始



大阪府立大学大学院 海洋システム工学分野教授
池田 良穂

いよいよ、11万総トンのクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」の日本起点クルーズが4月17日から始まった。それに先立って実施されたお披露目クルーズに乗船することができ、シンガポールで改装された船内で食事を堪能し、プリンセスクルーズ首脳の会見にも出席することができた。

プリンセスクルーズは、北米西海岸の沿岸およびアラスカクルーズから始まった会社で、その後、英国のP&Oやイタリアのシトマークルーズと合体して急成長した会社で、人気テレビドラマ「ラブポート」の舞台となったことで、西海岸のクルーズの一大ブームに火がついたという伝説をもっている。

当初は、クルーズでもやや高級路線の方針をとっていたが、シトマークルーズを吸収してからは、やや大衆路線に方向転換をし、大型のクルーズ客船の連続建造をして、北米西海岸だけでなく、カリブ海、欧州、オーストラリアなどの水域に世界展開をしている会社である。10万総トンを超えるオ

ーバーパナマックスのクルーズ客船を1998年に他社に先駆けて建造し、その第1船の「グランド・プリンセス」以下9隻を連続建造し、現在は14万総トン型船の連続建造を行っている。

日本起点クルーズを始めた「ダイヤモンド・プリンセス」は、11万総トン型船の1隻で、三菱長崎で建造され、同型姉妹船に「サファイア・プリンセス」がある。

4月14日、横浜港の大栈橋には「ダイヤモンド・プリンセス」が停泊していた。反対側の岸壁には、ホランド・アメリカ・ラインのクルーズ客船「ボーレンダム」が停泊しており、こちらは日本の旅行社のチャーターで、2隻のクルーズ客船に多数の乗客が乗るために、ターミナルは人でごったがえしていた。いよいよ、日本にも本格的なクルーズの時代がやってきたという象徴のような光景だった。

夕方に乗船し、船内をくまなく見学した。夕食はツーシーティングで、筆者は6時か

らのファーストシーティングであった。この日の料理は、定食式でチョイスのないのがちょっと寂しかった。ただ、イタリア人シェフだけあって日本人の口にもよく合う。

食事の後にはショーを見て、あとはゆったりと過ごそうと思っていたが、出港が11時にずれ込み、その前のボートドリルが厳密で1時間以上拘束されてしまった。ワイン等をたっぷり頂いた後だったので、これは結構きつかった。

ボートドリルが終わると、いよいよ出港。横浜港の夜景を見ながらの出港は素晴らしかった。

一夜明けると、船は大棧橋に戻っていた。ブュフェスタイルの朝食を楽しんだ後、船内で行われた海事記者クラブ主催の首脳陣の会見、一般記者向けの会見にも出席した。プリンセスクルーズ社長と、アジア担当副社長、カーニバルジャパンの社長が、記者からの質問に答えていた。

プリンセスクルーズは、今年、「ダイヤモンド・プリンセス」と、8万総トン型の「サン・プリンセス」の2隻を日本発着クルーズに投入し、当初の目標は10万人の集客を目指すと言われていたが、来年度は1隻にして5万人に目標を下げるとのこと。まだ、需要が供給に追いつかない状況とのことで、現実的な目標に変えたとのこと。なかなか、日本のクルーズマーケットの開拓は一筋縄ではいかないようだ。

日本のマーケットに投入にあたり、プリンセスクルーズは、食事やお風呂など、日本人の嗜好に合わせたカスタマイズを行っている。日本食も楽しめるし、「ダイヤモ

ンド・プリンセス」では、展望浴場も新設された。世界展開にあたっては、各クルーズ会社共に、それぞれのマーケットの文化や嗜好に合わせたカスタマイズを進めているが、外国籍船で日本仕様にした船は珍しい。伝統的なクルーズのスタイルにこだわらない柔軟な姿勢がみられる。

テレビ広告も大々的に行った結果、日本におけるクルーズの認知度はかなり上がったが、それが直接プリンセスクルーズの予約につながっていないというプリンセス首脳陣の発言は、やや痛々しい。これが、早期の撤退につながらないように願うばかりである。

6月末からは、「サン・プリンセス」による、小樽起点の北海道一周クルーズが始まる。筆者も、その第1便をすでに予約していて、この画期的な定点定期クルーズを体験してみることにしている。ぜひ、本誌の読者の方々も、プリンセスクルーズの本格的なクルーズを楽しまれてはいかがでしょうか。費用は、意外なほど安く、レジャーとしてのコストパフォーマンスは抜群なこと請け合いである。



「ダイヤモンド・プリンセス」のメインシアター



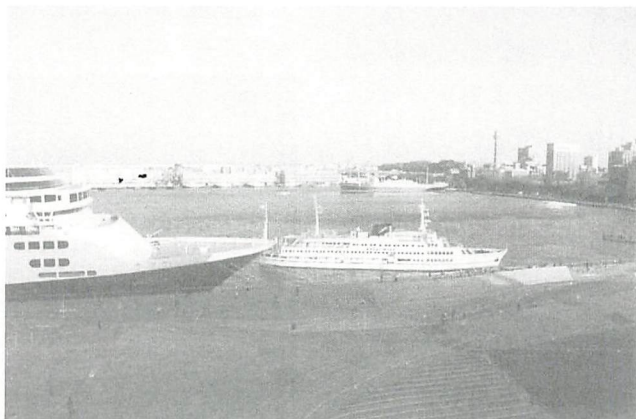
横浜の大桟橋に停泊する「ダイヤモンド・プリンセス」



新設された展望風呂



室内プール



ダイヤモンド・プリンセス船上から望む横浜港。左手前に「ボーレンダム」、一番奥に「氷川丸」、そして出港するレストラン船「ロイヤル・ウィング」の姿が見える。